（別紙4）　　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270300462		
法人名	株式会社　あおぞら福祉会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	長崎県島原市下折橋町3433番地1		
自己評価作成日	平成　27　年　9月　7日	評価結果市町村受理日	平成　27　年　12　月　7　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4270300462-00&PrefCd=42&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成　27　年　10　月　28　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームあおぞらでは、利用者のその日その時の気持ちをくみ取って安心して暮らせるように支援している。例えば、買い物に行きたい・お墓参りに行きたい・趣味の裁縫をしたいなど状況や要望に応じた柔軟な支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

敷地内に同法人の施設が隣接する当ホームは、南向きの窓からは雄大な眉山と野菜畑が見渡せ、自然豊かな場所に立地している。開設12年を迎え、平成23年に運営理念を基に全職員で介護理念を作成し、青空のような爽やかな明るい笑顔で挨拶ができるようにと、日々理念の実践に取組んでいる。
職員は入居者が望むこと・やりたい事を自由にできるようにと、笑顔で接し、手伝ってもらった事には笑顔で感謝を声にし、入居者の生きがい・やりがいに繋がるよう支援に取組んでいる。
管理者と職員は即時の情報共有に努め、管理者は職員の相談等に対応するように取組んでいる。
毎朝、朝礼の時に理念の唱和と日々の心構えを共有し日々の支援に取組んでおり、今後も期待が持てるホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名　グループホームあおぞら

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あおぞら介護理念を掲げ、廊下や玄関等わかりやすい場所に提示している。また、毎朝の朝礼で復唱し再認識することで（実践につなげている。）理念に近付けられるようケアに取り組んでいる。	運営理念を基に、平成23年に介護理念を職員全員で作成している。入居者に笑顔で接し、笑顔で感謝を声にし、入居者の生きがい・やりがいに繋がるよう日々理念の実践に取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設、地域の行事に参加。一年に一度の風船バレー大会・敬老会・学習体験・地域の方に慰問（和太鼓、コンサート等）に来て頂き交流の機会を設けている。	自治会に加入して、地区の運動会・市民清掃に地域の一員として参加している。地域の中学・高校の職場体験や、インターンシップ研修を受け入れて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方を理解して頂く為に施設見学やボランティア実習を受け入れ、理解・支援方法の向上にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き利用者へのサービス状況や日々の取り組みについて報告や話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議に、市職員・元消防団副団長・多機能ケアあおぞら所長・町内会会長の参加がある。日々の主な活動状況・研修会参加状況などの報告や、地域の方についての情報交換や話し合いをしている。家族の方へ呼び掛け参加に繋げられるようにお願いしたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係者と日頃から情報交換を行い、より良いサービスが提供出来るように協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議で得た情報から近所の方について保険センター・市役所・警察・に相談し、順回をしてもらう等協力関係を築くように取組んでいる。近隣に独居老人が多いので、包括の方など立ち寄られることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や月一回の職員会議の話し合いの中で、身体拘束についての正しい知識と理解を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	帰宅願望がある方には会話を通して入居者の言葉を受入れ、「一緒に出かけましょう」等声かけして、散歩・ドライブに誘い入居者が納得するよう支援に努めている。夜間の転倒防止の為に、入居者の行動を把握するまでは家族の了承の下センサーを使用している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し正しい知識と理解を持ち、虐待が見過ごされる事がないよう日頃から観察したり助言が出来、円滑な人間関係を築く事で事前の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し権利擁護に関する制度について理解を深め、それらを現場で活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族・利用者へ施設内見学をして頂き、分かりやすく丁寧に説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族などが意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表わせる機会を設け、それらを運営に反映してる。	玄関に意見箱を設置しており気軽に意見を話せる環境を作っている。また面会時に家族とコミュニケーションを図ることで意見・要望を反映させている。	家族から「転びやすいのに歩き出したい願望があるので気をつけてほしい」との要望に、見守りで対応する等、家族の意見の反映にも取組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月に一度職員ミーティングを行い、意見や提案を話せる機会を設けている。	管理者・主任(職員投票で選任)は日頃から相談できるよう努め、的確な指示を出せるよう取組んでいる。研修や資格取得を希望する職員には参加を促し、日々の業務や職員個々の向上心に繋がっている様子が窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常からコミュニケーションを密に行いサービス残業なく、各自がやりがいをもって働きやすい職場環境に努めてる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へ参加する機会を作り、技術や知識を学びスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会やグループホーム連絡協議会の研修会等へ参加し、スキルアップ・サービスの質を向上していく取り組みをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中でコミュニケーションを図り、要望等を傾聴し安心して相談できる受容の姿勢で信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、要望等を傾聴しこれまでの経緯を含めどのような対応が出来るか話し合いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、多角的な視点からの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや料理の下ごしらえ、洗濯物たたみ等を共にし、生活共同体としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族の絆を大切にし、面会時等に利用者の状況を報告したり家族の要望があれば電話報告するなど共に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの美容室・病院を利用したり、手紙のやり取りやドライブ・面会を通し人や場所との関係が途切れないよう努めている。	法事や、墓参り等、希望に応じて職員対応で支援し、外泊する時は、家族の希望に応じて自宅まで送迎している。趣味で編み物をする入居者の要望に応じ、馴染みの毛糸屋へ買いに行くよう支援に努めている。また、電話の取り次ぎや、手紙・はがきのやり取りを支援する等、馴染みの人や場と途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を理解し、職員が調整役となり集団でのレクリエーションやドライブ等に参加し孤立する事がない支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも、利用者や家族の経過のフォローをし相談や支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴を知り馴染みのある物を置くなど、その人らしい暮らしを続けられるよう意向の把握に努めている。	入居者との雑談の中から意向を把握するよう努め、入居者の「買い物に行きたい」等の要望に早目に対応するよう心がけている。意思疎通の困難な入居者には、寄り添い、期長に、表情を見ながら思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーション・家族からの情報にてこれまでの暮らし方、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人日誌の記録・健康面・精神面の観察を行い現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多面的な視点からケアについて必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	入所前に立てた暫定介護計画を基に、担当職員がアセスメントを行い管理者が計画書を作成している。計画書には状態に応じ専門リハビリに通う等、関係者の意見を反映するよう取組んでいる。連絡が取りづらい家族へは、電話で報告・説明を行い、書類が手元へ到着後再度説明するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中に細やかな気づきや変化・利用者の発言を記入し、職員間で情報を共有しながら実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに応じて利用者や家族の状況、面会等も柔軟に対応しサービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて警察・消防・民生委員やボランティア等と連絡出来る体制を取り、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、通院等も看護師や職員が同行し情報交換を行い早めの受診・適切な医療を受けられるように支援している。	入居者は全員入所前からのかかりつけ医を受診し、専門医も職員が対応している。受診の際は連絡帳や看護記録のコピー（マーカーで判りやすく記す）を持参し、医師に相談している。薬が変更になった時は電話で家族に連絡し、透析の入居者は、連絡帳で食事（注意事項）や医師からの指示書を職員間で共有して介護支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師へ報告し適切な対応や受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は毎日面会へ行き、病医院関係者と情報交換・相談に努めている。日頃から定期受診等で病院関係者と関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から利用者・家族等の意向を十分に尊重し、説明・話し合いを行い方針を共有・支援出来るよう取り組んでいる。	入所の時に看取りについて説明し、希望に応じて支援に取組んでいる。看取りの指針があり、入居者の状態・必要に応じ、特別指示書で、訪問看護をしてもらい、異変があったらすぐに管理者に報告・指示を仰ぐような体制に取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会へ参加したり、緊急時対応マニュアルを確認し、急変時・事故発生時に備え実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回消防署立ち会いのもと様々な状況を想定した訓練を実施し、消火・避難方法を身につけている。	年2回の消防署立会で訓練を行い、９月には地震からの火災発生を想定して初期消火訓練・通報・避難までの訓練を行っている。和室の敷物の排除や事務室のロールカーテンを防炎製品に変更する等、防火対策の改善も行っている。 ハザードマップの掲示があり、地区避難所と共に土砂災害避難区域に入っている。	避難区域である事を踏まえマニュアル等の作成を期待したい。 災害時の備蓄品一覧表はあるが、飲・食物が少ないので、3日分を目安とするよう期待したい。また、隣接の同法人の施設と協力して備蓄品及び保管分担の再検討とをお願いします。情報と本人が一致するように非常時持ち出し情報一覧に写真（顔・全身）を添付する事をお願いします。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや目線に注意し一人ひとりの人格を尊重した声掛けや配慮を行い、間違った対応や言葉掛けには職員間で注意し合っている。	「自分がして欲しくない事はしない」との思いで入居者に接し、小声での誘導やイニシャルで話したり、入居者へ声を掛ける時は上から目線や幼児語・ぶっきらぼうな言葉とならないよう、職員間でその都度注意し合い入居者のプライバシーに配慮した支援に取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう日頃からコミュニケーションを大切に意思表示をしやすいよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし体調や気分にも配慮した対応や、利用者の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選定したり、整容・お化粧等、利用者が望むおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握し、一緒に献立を考えたり料理の下ごしらえや食器拭きを行っている。	旬の野菜を使い、リクエスト食（だご汁・煮魚等）を取り入れ、職員が調理している。入居者は包丁やピーラーを使い、食事の下ごしらえや茶碗拭き、洗濯ものたたみ等の手伝いをしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に応じて食事量や食事形態・栄養バランス・水分量を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は全員に声掛け確認を行い、必要に応じて見守りを行っている。夕食後は義歯の清潔保持の為洗浄剤を使用している。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は時間誘導を行い排泄記録を残している。一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の失敗やオムツの使用を減らしている。	基本トイレで排泄するよう、時間を見て声掛け誘導や見守り等、自立した排泄の支援に努めている。失敗した時は周りに配慮した声掛けをし、会議等職員間で共有する時はイニシャルで話す等プライバシーに配慮するよう努めている。入居後ほぼオムツからポータブル等になり自立した排泄に改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェックし看護師と相談しながら十分な水分補給や食事の工夫をしたり、適度な運動を取りこんでいる。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、希望があれば体調を見ながら入浴日以外でも可能な限り入浴して頂いている。また、リラックス出来るように入浴剤を使用したり、足浴を行っている。	入浴は、基本1対1で対応し、重度の方（脚が上らない方等）は移乗の時に2人対応で取り外しの回転イスを使用し、安全に配慮して入浴支援に取組んでいる。脱衣場は臭いが籠りやすいので換気を心がけるようにお願いしたい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった空間作りや寝衣・空調にも気をつけ安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が全て理解することは困難であるが、看護師へ確認したり、説明書で理解することで服薬支援・症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かして洗濯物たたみや料理の下ごしらえ、レクリエーションやドライブを通して時期に応じた作業・役割・気分転換の支援を行ってる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週一回日曜日にドライブへ行ったり、施設周辺の散歩や施設の買い物に職員と同行したり、事前に連絡を頂きご家族と協力しながらいつでも外出・外泊出来るように支援を行っている。	近隣の畑にひまわりの花やコスモスを見に散歩に出かけたり、ウッドデッキで日光浴・合唱・お茶・おやつを食べて楽しめるよう支援に取組んでいる。希望に応じて近くのスーパーに買い物に行ったり、通販の欲しい物がある時は家族に相談し、可能な範囲で対応するよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意思を大切にして、金銭管理が困難な方は金庫で預かり、希望があれば職員が同行して買い物へ行き、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用出来るように見える所へ設置してあり、携帯電話も持っている方がいるので操作方法が分からない方には教える事もある。手紙は本人へ手渡し返信もポストへ投函するなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室には季節に応じた飾り付けや写真の展示、生け花、時期にあったBGMを流し居心地の良い環境作りを心掛けている。	玄関に入ると、ホーム名と同じ青空の壁紙が爽やかで、リビング兼食堂は明るく清潔感を窺える。入居者で興味のある方が、時々ピアノを触ったり、ボランティアの方が来た時にはミニ演奏会となり、入居者もピアノの周りに集まり楽しみに繋がった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、和室、リビングを自由に移動でき、TVを見たり、ゆっくり話しを出来るように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の慣れ親しんだ物を配置し使用して頂いている。各居室担当者が居心地の良く過ごせるよう工夫している。	居室は、ベッド・クローゼットが設置してあり、家族の写真・目覚まし・似顔絵が書いてある色紙等が飾られている。入居者の中には好きな漫画を持込み、好きな時に読んで楽しんでいる。入居者それぞれが居心地良く過ごせるような工夫が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は利用者が戸惑わないようトイレや居室には文字で示している。また、手すりがあり段差がないバリアフリーにしてあり、夜間は足元が点灯するなど安全な環境にしている。		